

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: Global Study Program

派遣先大学: UD Davis

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:信託銀行 ) 6.起業 7.その他( )

#### 派遣先大学の概要

カリフォルニア大学システムに所属する 10 大学のうちの 1 校です。カリフォルニア州の内陸に位置する公共大学。農業関係の研究に関しては世界ランカー位。

#### 参加した動機

私は農学部の農業資源経済学専修に所属していたので、高いレベルの農学と経済学の知識を持った学生や教授と交流できると考えました。また、就活を通じて今後自分が働く職場で英語を使う能力が必須であると感じたことも留学をしようと考えた理由の一つです。

#### 参加の準備

##### ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東京大学の留学プログラムを通じて留学いたしました。手続きは大学から送付される応募フォームに記入していただくので特段難しいことはありません。それよりも留学に行く目的や留学を終えた後のビジョンを確立しておくことが必須だと思います。

##### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの手続きは煩雑で時間が掛かりました。私はアメリカの F-1 ビザ(学生向けのビザ)を取得いたしました。手続きに当たって必要な物は、パスポート、派遣先大学からの留学承認書類(I-20)です。まず大使館のサイト経由で応募フォームに記入して申し込みをしたのち、実際に大使館を訪れて面接が行われます。面接と言っても自分の名前と留学の目的を軽く言うことが出来れば問題ありません。大使館の面接ののち 1 週間ほどでビザが郵送されます。

##### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

留学に向かう前には一通りの予防接種を済ませることをお勧めいたします。特に忘れがちなのが歯医者です。虫歯の治療をアメリカで行うと非常に高額となるので、治療を行っておくとよいでしょう。

##### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

留学保険は生協を通じて申し込みました。インターネットを通じて申し込むことが可能です。万が一の事態(交通事故・医療費等)に備えて、保険に加入しておくことは必須だと思います。海外の治療費は日本とは比べ物にならないほど高額です。

##### ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

私は第四年度で卒業のための単位は研究室での卒業論文を除いて全て取り切っていました。留学前には指導教官に留学の旨を伝えておきました。また、農学部に対して提出する書類もあり、それは教務課から受け取ることが出来ます。

##### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前の英語レベルは TOEFL が 60 点台であり褒められるほどいい成績ではありませんでした。アカデミックな単語は大学で学ぶことが出来ますが、おそらく会話表現などはなかなか日本では身に付かないものだと思います。留学に行く前に自分のことと日本のことを英語で紹介できるようにしておくといよいと思います。それだけでも最初のホームステイとのやり取りをスムーズに行えるでしょう。

##### ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

夏は日差しが非常に強いので日焼け止めは必須だと思います。また散髪も前もって済ませておくことをお勧めします。

## 学習・研究について

### ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

私は英語学習とキャンパスの授業が一体となっているプログラムに参加致しました。印象に残っているのはキャンパスの linguistic の授業です。語学を勉強する上で、どのような意識を持って学習すればさらに語学力を伸ばすことが出来るのか実感することが出来ました。

### ② 学習・研究面でのアドバイス

Summer Session は日本の授業よりも短期間で密度の濃い学習となります。日本よりはるかに多くの課題が課されるので計画的に取り組みましょう。また学習を行う上で考えたことは、英語での授業でも結局その内容は日本語でも学ぶことが出来ます。ですがその「内容」を英語を通じて把握、理解できるようになることが、留学での学習の醍醐味ではないかと思いました。

### ③ 語学面での苦勞・アドバイス等

単語力が乏しい中で、どのように単語を繋ぎ合わせて相手に自分の意図を伝えるか模索した2ヶ月間でした。私は英語を話す際にも基礎を重んじて、受験時代に学んだ文法を意識していました。逆に、自分が普段話す日本語の文章構造や文法(接続詞、関係副詞など)が分かれば、それを英語用の文法に並び替える練習を積むことで自分が日本語で言いたいことは言えるようになるはずです。勿論それだけでは日本語を直訳した不自然な英語になってしまうので、最終的には英語なりの表現を学ぶことが大切です。またボキャブラリー不足には常に悩まされました。相手が文章の中に二つでも分からない単語を言うだけで、理解が追い付かなくなってしまいます。ネイティブの大学生が使用する単語数は20000から40000語と言われているので、それに追いつくには常日頃から新しい単語を吸収するように心掛けないといけないでしょう。単語とその使用法を同時に知ることが重要だと思います。

## 生活について

### ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイに宿泊していました。Davisにはいくつかホームステイ紹介会社があるのですが、私はその中で最も大きな Davis Housing を利用していました。家賃はひと月約8万円で、食事を一日2回か3回とるかの選択によって値段が少し変わります。諸注意としては、Davisの近隣都市に Woodland と Sacramento があるのですが、そこに位置する家を紹介されると交通の便が本数の少ないバスに限られ、非常に面倒です。私は最初 Woodland の家を紹介されたのですが、家を変えてほしい旨を会社の者にメールで伝えたところ、Davis の家に変えていただけました。その方が自転車のみで通学できるので、気持ちは楽だと思います。

### ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

温暖な気候でほとんど雨が降らず、常に青空が広がる過ごしやすい所でした。交通手段の殆どは自転車で、自転車用の道路が整備されています。バスも日本ほど本数は多くないですが、学生ならば無料で使用できるバスがあり、近隣都市の Woodland や Sacramento にも向かうことが出来ます。

### ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

自転車の盗難が非常に多い町でした。自転車を駐車する際には、鍵(チェーンではなくUロックと呼ばれる鉄製のもの)をしっかり車体に取り付けることが重要です。車輪に鍵を取り付けるだけでは、分解されて車体を盗まれる可能性があります。

### ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

全て加味すると合計約110万円でした。内訳を以下に述べます。航空賃:5万、授業料:60万、教科書代:2万、家賃:30万、食費:5万、娯楽費:7万。

### ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

卒業生からの奨学金(25万円)を受給いたしました。東京大学の留学プログラム紹介サイト(Todai Go Global)を通じてこの奨学金について知りました。

### ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

テニスコートが10面以上整備されており、無料で使用できたので毎週テニスをしていました。

## 派遣先大学の環境について

### ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

東京大学の学生に対してお食事会などに誘っていただけました。

### ④ 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は開館時間が日本と比較すると極端に短いです。例えば毎週土曜日は休館してしまいます。ですが、図書館横に24時間自習室があるので、そこを頻繁に使用していました。

スポーツ施設はARCがあります。基本的なジム設備は全て整っており、自習室もあります。

食堂はMU(Memorial Union)とSailoがあります。昼食は5~8ドルほどです。

Wifiは建物の中ならばどこでも接続することが出来ます。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

デービスでは非常に濃密な二か月間を過ごし、ここには書ききれないぐらい沢山のことを学びました。その中でも三つだけ強く印象に残ったことを書こうと思います。

- ・異文化を肌で感じる事が出来た。

デービスは留学生が多く、アメリカ人に限らず様々な国の出身と人と交流する機会がありました。出身が違えば、考え方、話し方、風習が全然違って、話す度に新たな発見がありました。実体験を通じて知ったものは本を通じて知るより鮮明で、強く印象に残りました。

日本の授業の評価はテストや出席、レポートで下されることがほとんどですが、アメリカではそれに加えて授業参加度も重視されています。だからこそアメリカ人は返答が素早く、議論する力が鍛えられていると思いました。またこちらの学生は良い大学院に行くためにみんな GPA を気にしていると感じました。

- ・逆に自分が使う日本語を見つめる良い機会になった。

英語のボキャブラリーが貧弱な中で、それらを繋ぎ合わせて言いたいことを伝えようともがく二か月でした。英語を母国語とする大学生は会話の中で 20000~40000 単語を使いこなすそうですが、私は四桁が限界です。ですが簡単な単語でも上手く繋ぎ合わせれば、言いたいことを伝えられることを実感しました。

そこで自分の話す日本語を振り返った時に、難しい専門用語ばかり使うことが多々あったと反省しました。文章の中で一つでも普段見聞きしない単語があるだけで、聞き手にとって大きな負担になります。なるべく相手の知っている言葉を選んで使って話すことが相手に分かり易く伝える秘訣だと思いました。

- ・現地の教授を訪問することが出来た。

卒業論文のテーマに関連した研究をなさっている教授 (Robert C.Feenstra) が偶然 UC Davis にいらっしまったので訪問することが出来ました。貿易論に関して非常に多くの論文を執筆なさっている大変有名な方であるにも関わらず、学部生の突然のアポイントに応じて下さりました。少しの時間でしたが、大変貴重な経験をする事が出来て嬉しかったです。

### ② 参加後の予定

今後大学卒業までに就職に向けての資格勉強と、卒業論文を完成させることが大きな二つのタスクです。留学中に得た海外の知識や培った英語を読み解く能力は卒業論文の執筆の助けになると考えています。また折角英語を学んだので、英語を使う能力が衰えないように、英語を使う環境に積極的に足を運んで、更なる英語力の向上に努めたいと考えています。

### ⑤ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学は自分のことを振り返る非常にいい機会だと思います。英語力に不安を感じて留学を思いとどまってしまう人もいるかもしれませんが、あるレベルを超えたところで非常に楽しくなります。

自分が今まで過ごしていた環境とは全く違う環境に身を置き、不安に感じることもあるかもしれませんが、留学は自分なりの価値観を固めることが出来るチャンスだと思います。留学は自分の内面、精神的な成長を感じる機会が沢山あります。勇気を出して一歩を踏み出し、皆さんなりの留学生生活を精一杯楽しんでください。

## その他

### ① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

#### 留学中に役立ったウェブサイト

Davis Wiki [http://daviswiki.org/Front\\_Page](http://daviswiki.org/Front_Page)

UC Davis やその周辺施設、旅行に行く方法など総合的な情報が集約されており、非常に便利でした。

### ② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

